

第3回 橋本市生涯学習推進計画策定委員会 議事録（要約）

開催日時	令和3年3月1日（月）15:00～
開催場所	教育文化会館3階 第3研修室
出席者	村田委員、土田委員、滝上委員、守口委員、吉田委員、中岡委員、 阪口委員、正林委員、森口伸吾委員、深本委員
欠席者	なし
事務局	生涯学習課 萱野課長、平田
公開状況	公開
傍聴者	0名
次第	1. 開会 2. 議題 (1) 計画見直しについて (2) 答申について (3) その他 3. 閉会
資料	資料1 生涯学習推進計画中間見直し案（全体） 資料2 重点目標の見直し案 資料3 社会教育委員からの提言書 資料4 答申書案

1.開会

事務局より開会の挨拶、資料の確認。

開催にあたり委員数11名のうち10名の出席、過半数の出席により本会の成立を報告。

2.議題

▶副委員長（挨拶と議題の公開について）

推進計画の見直しも最終回を迎えた。今日で一定の見直しを終えてまとめに入る。忌憚なく意見を頂戴したいと考えている。まず、議事の公開についてお尋ねする。本日の議事については非公開にする案件を含まないために公開としてよろしいか。

▶委員

異議なし

▶委員長

それでは公開とさせていただく。議題について、本日は2つ。一つ目は中間見直しについて、二つ目はその後の方針について。計画の見直しについて事務局から説明をお願いしたい。

【(1) 計画見直しについて】

▶事務局

これまでに実施した策定委員会の経過、及び配布資料の説明。

▶副委員長

実際に自分達、社会教育推進委員も含めて、どこまでできているのだろうか今回使用料のことをきっかけに話し合う機会にしてまとめた。橋本市の社会教育はどのような方向を向いていくのだろうかということ、今の良い部分を大事にしていきたいということもこの中に含めた。公民館は大きな存在であること、社会教育団体がたくさんあるということを今後も、橋本市の自治的な意識を持った方と共に育てていけるように、重点的に考えていきたいという意見が多くあった。何回も通常の会議以外にも集まって意見交換したものをここに含めたと思っている。減免措置に対する考え方というところもあるが、社会教育施設はこういう観点で今後考えていきたいということを、10年先を見据えたものをみんなで考えて作っていきたいという思いをのせた。

▶事務局

社会教育委員会議の正式な会議以外でも自主的なミーティングを持っていただいて、提言書ということでもまとめて頂いた。参考資料ということで、中間見直しの計画にも添付していこうと考えている。見直しについての説明は以上とさせて頂く。

▶委員長

本日の会議は答申前の最終の会議という位置づけである。そのため本日の見直し案をこの会議では決定する必要がある。これからの方法として具体的に細かいところもあるが、重点目標の見直し案についてご意見を頂きたいと思う。中間見直し版の38ページに重点目標を掲示している。3つの目標のうち、タイトルの見直しも行って内容の見直しもかけていただき、関係機関にお伺いもしている。資料2の見直し案を抜粋して38ページにスライドしている。計画の見直し案を答申につなげていく最後の資料。答申2はこの計画と提言書、この2つを合わせて答申につなげていくことになる。

【資料2 (1) 重点目標1 共育コミュニティの推進 について】

▶副委員長

最後の2行について、コーディネーターの役割はこういう役割です、だから共同実施します、という書き方のほうがよいのではないか。

▶委員長

前回のとき「地域の人材を発掘し、共育コーディネーターが地域の各になれるように研修を実施します」とあった。5年前に定めた推進計画において「共育コーディネーターが」、という主語を謡ってきているため、この表現で良いと思う。新たに加わっているニュアンスは調整役として活躍する、併せて地域の人材の発掘、となっている。

▶副委員長

人材を見付けること、地域の核となることはその通りだと思う。「『市や共育コミュニティ』の調整」と読んでしまった。コーディネーターが人材発掘して全部しなければいけないと読んだ。コーディネーターという人材を発掘していただきたいということを明記してもらった方が、と思う。

▶委員長

共育コーディネーターに共育コミュニティの調整役として活躍する、というと並列がついている。

▶委員

市が短すぎるので、並列として読むには読み間違いが多くなってしまふ。文字数的にアンバランスになってしまっている。「市」が行政の名前、「コーディネーター」が人になっているので並列になりにくい。「市担当者」など人にすればよいのではないか。

▶事務局

共に、という思いで書いたが、並列として表現できていないのかもしれない。共育コーディネーターの説明を省くこととしたい。

▶委員長

最終案は「市や共育コーディネーターは、地域の人材（宝）を発掘し、地域の核になるための学びやつながりの機会を提供します。」としてよいか。

▶委員

異議なし

【資料2 (2) 重点目標2 ESDの推進 について】

▶委員長

持続可能な社会の推進、特に学校教育課が担当課に入っているのでご意見があれば。

▶委員

見直し案については、ユネスコスクールの登録が抜けている。見直す前はユネスコスクールの登録に向けて推進するとしていた。今回は見直した上で、結果的にユネスコスクールの登録になればよいが、登録に向けては推進しているわけではない。

▶委員長

SDGsの視点で、何か意見はないか。

▶委員

意見無し。すでに学校ではSDGsの視点で取り組みを始めている学校もある。

▶委員長

何か他にご意見はないか。

▶委員

意見無し

▶委員長

ご意見がないということで、この見直し案は成立として計画に反映する。

【資料2 (3) 重点目標3 地域を創る話し合いの場づくりの推進 について】

▶委員長

公民館から意見があれば。

▶委員

変更の部分について、事業を行って意見を頂こうとすると、意見が出にくい。普段皆さんが公民館に来ていただいて、その交流の中からいろんなことを考えていく方がよいということで、このような見直し案としている。

▶委員

話し合いの場は公民館だけか。今出前授業とかで学校で行う企画も増えている。これでいくと公民館だけに寄ってきてと言われているような。公民館から人材を派遣という場合も出てくるのが良いのではないか。担当課が中央公民館と、学校関係と相互にならないか。

▶委員長

今のご意見のように、そこだけがこれをやらなければならないと捉えられてしまうのではないかと。もっと幅広く関係するので、その時に担当課がこれでよいのか。今日最終回なのでどのあたりに落とし込むとすり合わせが出来るか。SDGsはもっと関係してくる。その理解に立てば教育委員会だけでなく、全庁的に学びを広く位置付けて、市民共同の時代ということもあり自治基本条例を策定された橋本市、様々なところで市民と職員と一緒に学びながらいい町を作るということで、もっと広くかかわっていく必要がある。

▶委員

大きくとらえて重点目標とするのであれば、これまでが担当課として書いていたが、これを消して全体で取り組むという位置づけでもよいのではないかと思う。

▶委員

この場所に担当課がなくても良いとは思いますが、担当がないと今後の振り返りをするときに漠然としてしまう。

▶委員長

このまま残していくということではいかか。一方でここだけの課ではない、他の課も関係するということの入れ方をどうするか。「計画の実現に向けて」の場所で書くことを検討してはどうか。

▶事務局

計画をはじめに作る時に、あえて担当課を書いたと聞いている。この目標についてはここがするという意味ではなく、中心になって進める課という意味。担当課という表現は残して、「計画の実現に向けて」の部分に全体で取り組むことを付け足したい。

▶副委員長

話し合いの場づくりは共育コミュニティの大きな部分を占める。公民館は中に入っているが、生涯学習課も担当課になるように思う。そのあたりを見えるようにしていただければ。

▶委員

中央公民館となっているのは、最初にシンポジウムを行うと考えていた経緯があった。今の中身は変わっているので、生涯学習課を入れておいても良いと思う。

▶委員長

担当課を残し、他の課も入るのではないかという議論になっている。すり合わせをする必要があると思うので、教育委員会で調整してほしい。全部が重点目標とするなら繋がっているし、他の部局や課も入るところは、事務局からの提案もあって書きぶりを「計画の実現に向けて」の部分に1～2行追加するということで、私の方で責任をもって進めさせていただく。

▶委員

「交流の場、学びの場の促進」という書き方、「場の促進」でいいのか。本文1行目には交流を推進すると書いている。促進というと横から応援して導く、推進となれば自ら進んでいくように感じる。言葉の統一、意味を明確に出来るように変えたほうが良いと思う。「交流を促進する」や「場づくりの推進」ならわかるが、「場の促進」という表現は違和感がある。

▶事務局

今回はシンポジウムと書いてしまったので縛られていたが、趣旨は変わっておらず、語り合いの場づくりをもって行きましょうという内容。「場づくりの推進」という表現でもよい。

▶委員

重点目標3の中で、既に5年たって成長してきている部分、これが地域づくりに代わってきている。主体が行政的なところから市民に代わってきている。市民の交流が自立的に進んでいく場に対して市の生涯学習計画としてはその側面から支援をしていくという促進という位置づけと解釈している。すでに場づくりから地域づくりに発展してきていると思っている。

▶委員長

見直し案のままの文言でよいという意見だった。

▶委員

促進は促進で良いと思う。場を促進するという文言が気になる。交流、学びの促進等の表現のほうが良いのではないか。

▶委員

推進は自分の事、促進は他人の事について、促すこと。主体がどこにあるかの違い。

▶委員長

①原稿案 ②地域づくりのための交流や学びの促進③促進を推進に変更する案が出ているが、他にご意見は。

▶副委員長

促進というと他人のことになってしまう。市と地域が共同でするなら、推進のほうがよい。

▶委員長

元々の案も推進となっている。シンポジウムに特定せずに広く場を作っていくということなので、推進で良いと考えている。促進のほうがよいという意見はありませんか。

▶委員

意見無し

▶委員長

それでは推進としたい。また、タイトルについては「場」という表記がなくてもよい。中身で場づくりというキーワードが出ている。「地域づくりのための交流、学びの推進」のような形にさせていただく。

【(2) 答申について】

▶事務局

資料4について、答申書の案となる。今回見直しについては教育長から諮問がされたということで、あて先が教育長、差出は委員長名となる。答申書の内容は読んでいただいた通り。鏡分と、別冊として中間見直し版の冊子を付けて答申としたい。社会教育委員会議がまとめた提言書も参考資料として添付する。議長からもあった通り、いろんな思いが詰まったものになるので併せて添付して答申とする。答申については3月23日午後、委員長と副委員長で提出する。

▶委員長

今事務局から説明があった通り、進めさせてもらってよろしいでしょうか。

▶委員

意見無し

▶委員長

そのように進めさせていただきます。

【(3) その他】

▶副委員長

提言書、是非じっくり読んでいただければ嬉しい。先ほど委員が言っていたが、具体的な施策がこの後ついていかないと。前回も社会教育委員がずっと計画を評価していこうという話だったが、具体的背景がなかったので評価が出来なかった。今具体的な施策があるのが大事な事なので、半年後よろしく願いたい。

▶委員長

答申が見直しにつながって、より一層具体的な施策に繋がるよう、重ねて答申時に私の方から教育長に答申させていただきたい。ご参加いただいた皆様ありがとうございました。

3.閉会